

# 隅田荘関係文書の再検討

— 隅田葛原氏を中心に —

はじめに

- 一 隅田荘関係文書の再検討 (一) 文書の概観 (二) 隅田家文書と葛原家文書  
二 隅田葛原氏・上田氏の系譜関係 (一) 葛原氏 (二) 上田氏

三 一族連署状の再検討

おわりに

久留島典子

## 論文要旨

隅田氏と隅田荘については戦前から多数の研究があり、多くの事実が明らかとなってきた。しかしその反面、このような厚い研究史に規定されて、基礎的な史料の性格や事実関係が十分に検討されないまま利用されたり、研究の視点が限定されるといった側面もあった。さらにこの地域では、近世における家の由緒形成に関わる「歴史研究・編纂」、すなわち史料の写し作成や系図のとりまとめ、自家に関わる文書の収集といった活動が極めて活発に行われており、この地域の残存史料は、以上の近世における「研究史」の規定をも受けていることを考慮しなければならない。つまり現在の時点で隅田氏・隅田荘研究を始めるにあたっては、前提としてこのような何重かのフィルターを意識化する作業が不可欠であるといえよう。

本稿ではその初歩的作業として、隅田荘関係文書の再検討を行った。史料の存在の仕方自体が、近世における「歴史研究・編纂」の過程を経たものだからである。まず関係文書を概観し各文書の性格を確認したうえで、特に隅

田家文書と葛原家文書の関係を検討した。隅田家文書は隅田荘関係文書の中心となる文書として知られているが、一方の葛原家文書は『和歌山県史』の刊行によって、中世分のかかなりの部分が新たに翻刻されるに至ったのである。その結果、両文書は本来隅田葛原家に伝来した文書ではないかと推測した。また、従来系図によって把握されていた隅田葛原氏の歴代を、系図にはよらず、その所見する文書史料をあげていくことで確認していき、上田氏についても同様な作業を行った。そして、隅田本宗家の史料が失われたために必ずしも明確ではないが、隅田氏を考える場合、一荘に限定されない広範な活動領域を常に考えていくべきことを指摘した。最後に、いわゆる隅田一族の連署状を検討し、地域的な一族結合形成の要因を探った。これは従来結合の成立時期やその性格について、論者によって力点の置き方が異なっていることに対する再整理の作業である。その結果、南北朝以降の政治的諸状況の変化が結合形成において大きな意味を有していたことを確認しえた。